

C.M.P. LIGHT TRUCK

1 35★ミリタリー・ヴィーフル・シリーズ No.6

第2次大戦
英連邦軍

C.M.P. 小型トラック

ITEM No.3508

MAX

株式会社マックス 模型
東京都台東区駒形2-4-7
〒111 TEL.03(844)1444



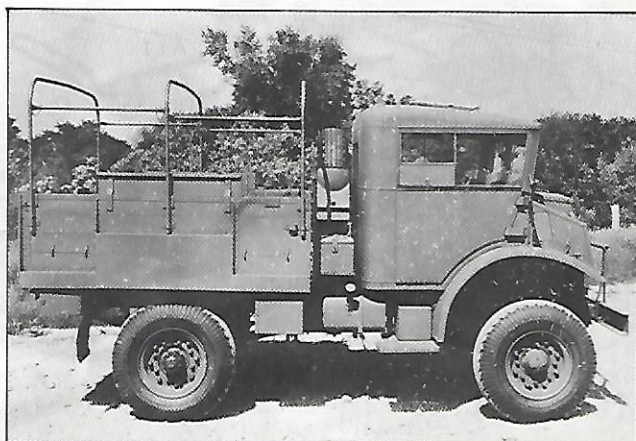
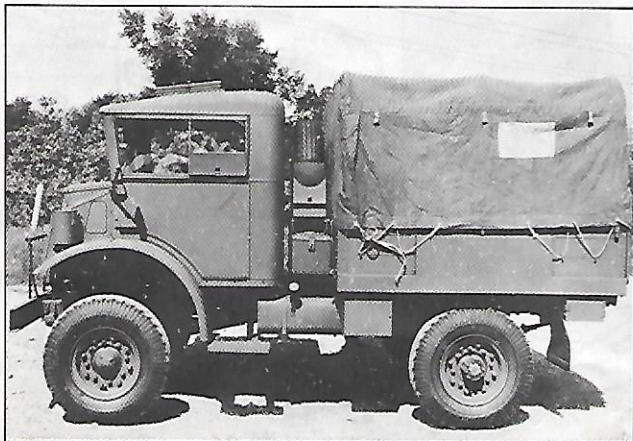
くみたての注意

- このキットは極めて精密にできていますがたんに根気よく作っていくと、だれにでもすばらしいモデルが作れます。
- くみたてにあたっては説明図をよくみて、

接着する前に一度パーツを合わせてみてバリとか切り口などをキレイに仕上げしてから接着します。接着剤は、あまりつけすぎないようにするのがモデルをキレイに仕上げるコツです。といっても接着剤が少ないとこわれやすいモデルができますから、見え

ない部分とか力のかかる部分にはタップリつけましょう。

■ペインティングはモデルが全部仕上ってから行ないますが運転席の中などこまかい部分はくみたての前に、あらかじめ塗装しておいてください。

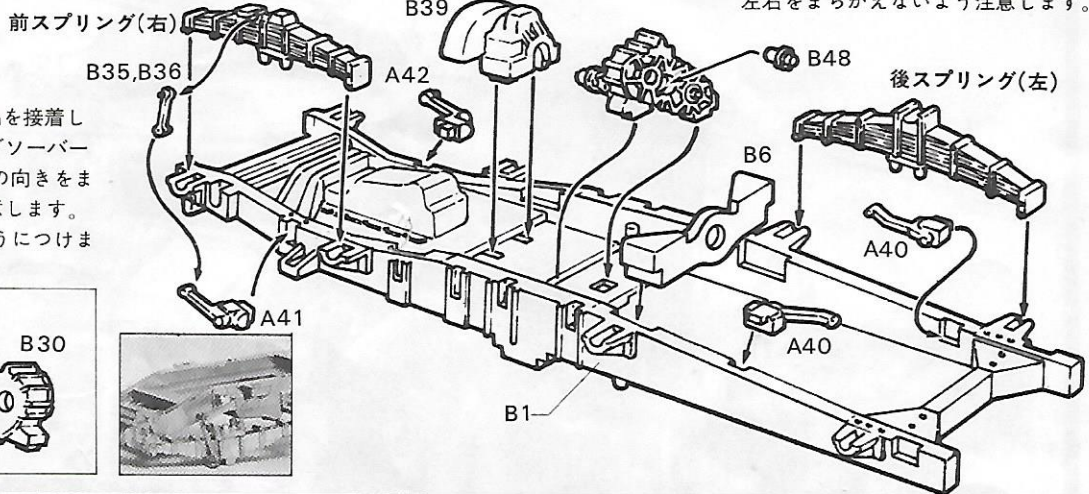
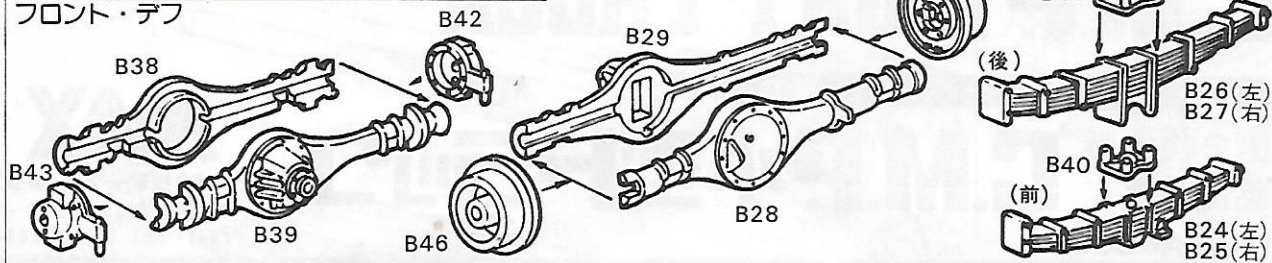


1 シャーシのくみだて(その1)

リア・デフ

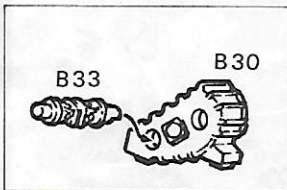
B46 スプリング

フロント・デフ



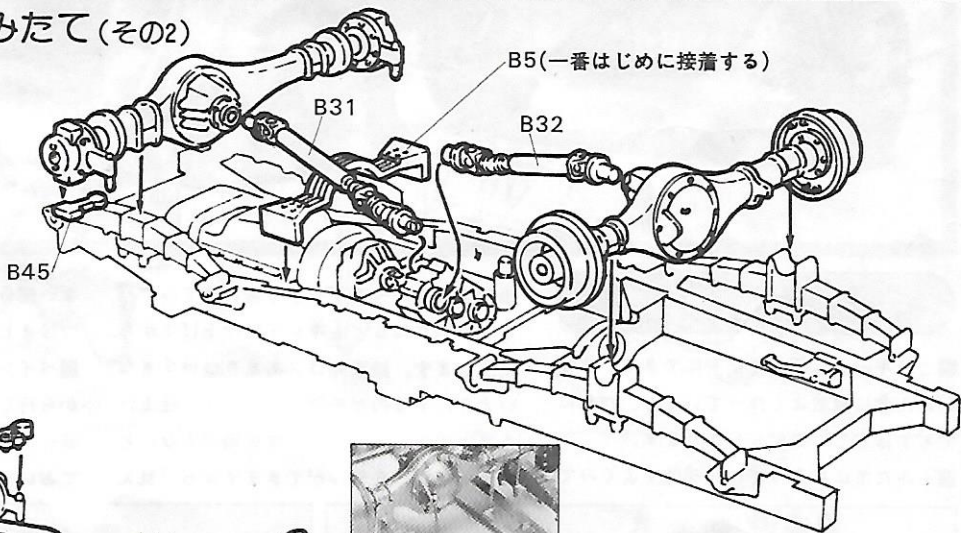
左右をまちがえないよう注意します。

シャーシB1に各部品を接着します。ショックアブソーバーA40, A41, A42は左右の向きをまちがえないよう注意します。またB36は写真のようにつけます。



2 シャーシのくみだて(その2)

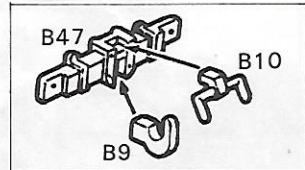
次に前後のデフを接着します。この時プロペラシャフトB31, B32を一括に接着します。



接着剤を正しくつかいましょう

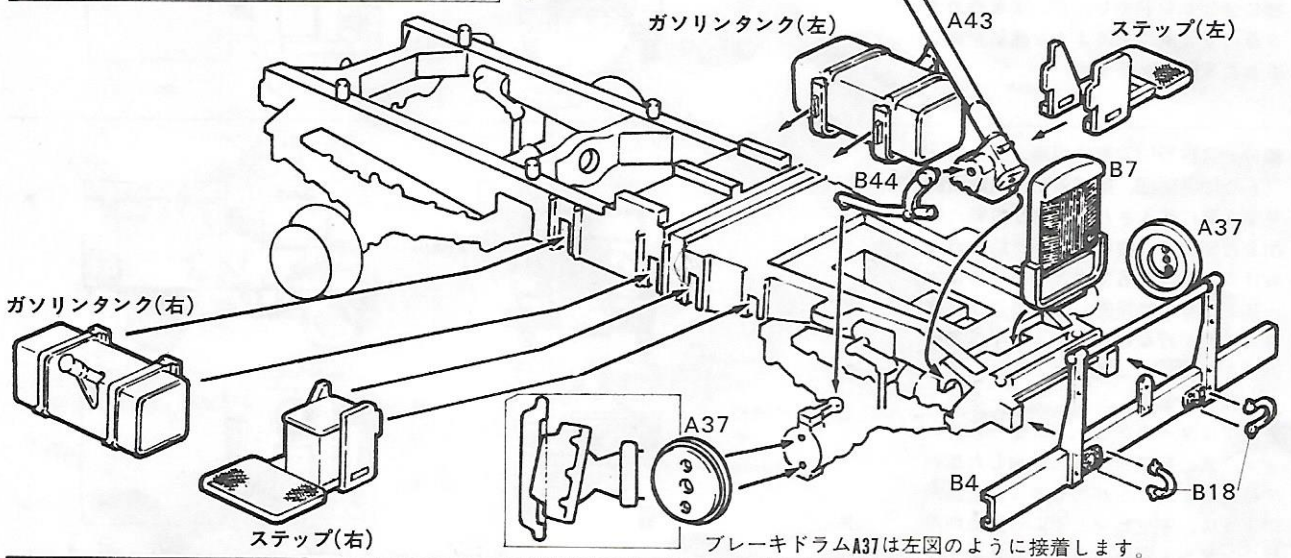
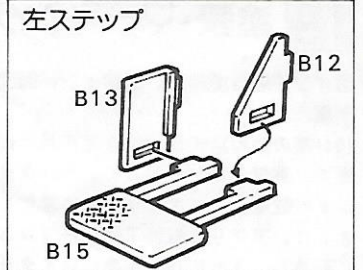
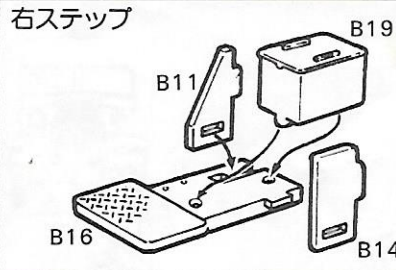
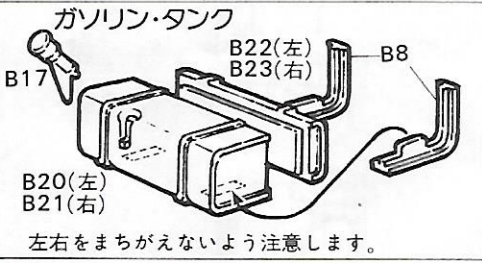
- 家庭用品品質表示法による接着剤品質表示
取扱以上の注意
- 1. 幼児の手の届かないところに保存し、
いたづらをしてはいけない様注意して下さい。
- 2. 火気に注意し換気をよくして下さい。
- 3. 故意に吸わない様注意して下さい。
- 表示者 S Z 3000 S Z 3006 S Z 5013

部品を取出した空袋は、幼児が扱ったりしない様に破りすて下さい。



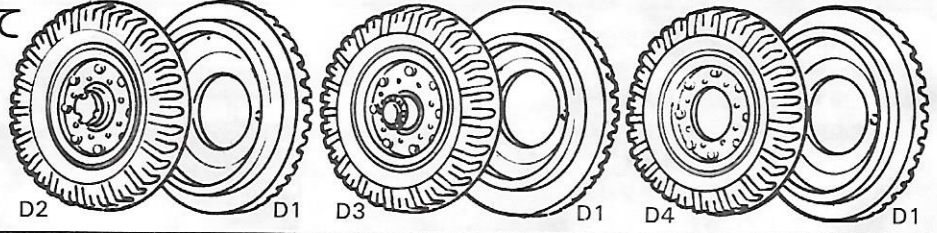
さしこむだけ

3 付属品の接着

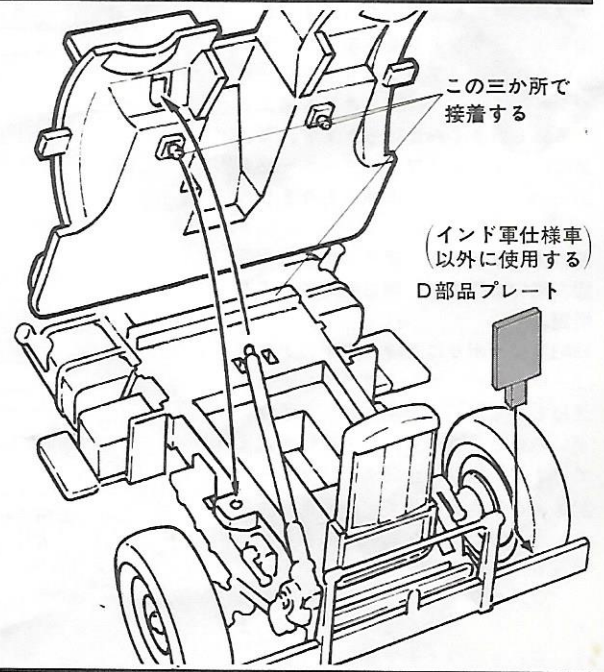
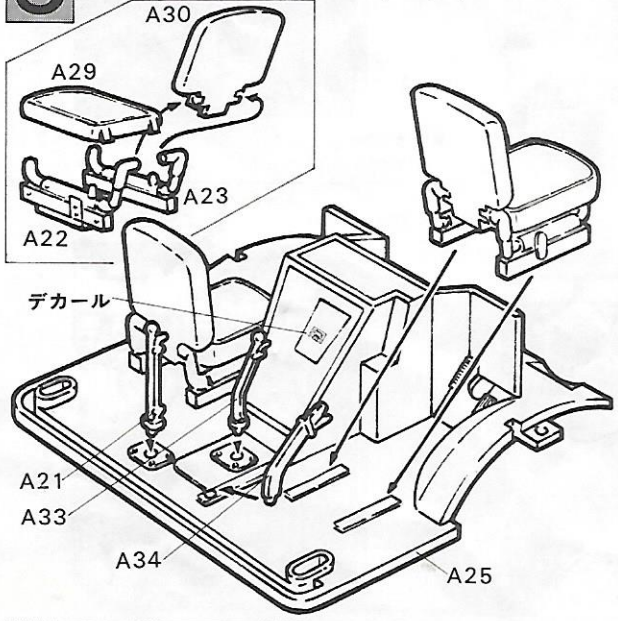


4 タイヤのくみだて

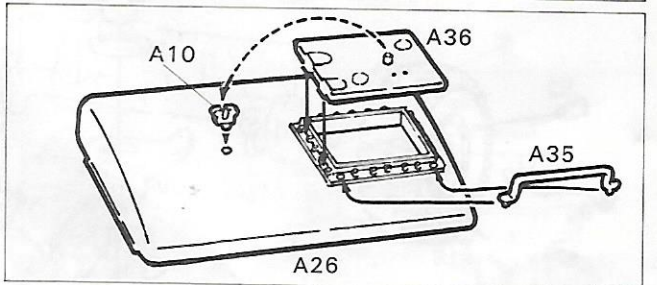
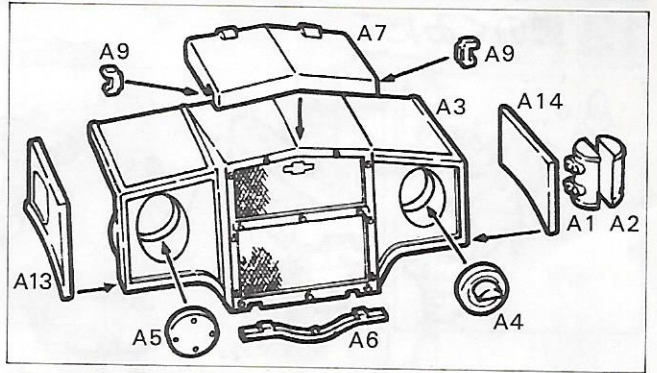
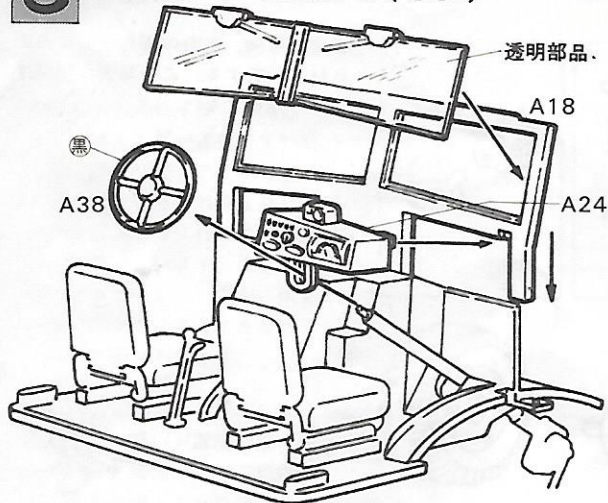
前後のタイヤ2個とスペアタイヤ1個をそれぞれ組立てます。前後のタイヤは金属シャフトを通し、かるくハンマーでたたいてさしこみます。



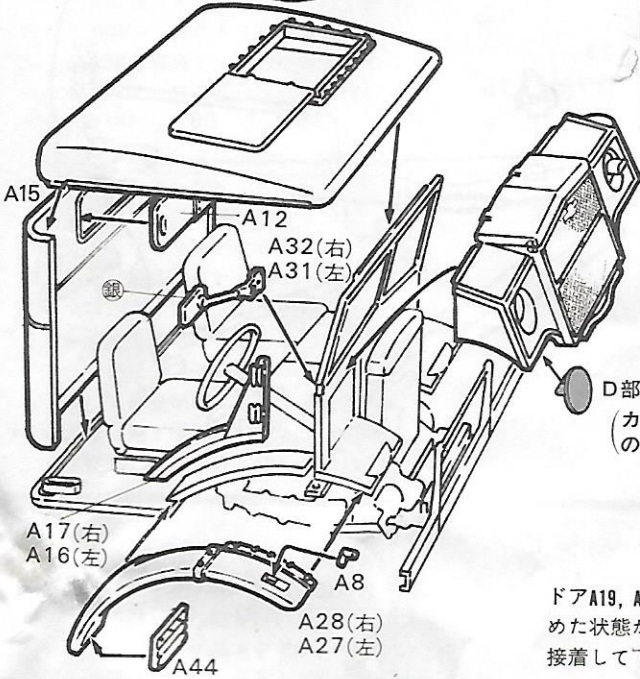
5 運転席のくみだて(その1)



6 運転席のくみたて(その2)

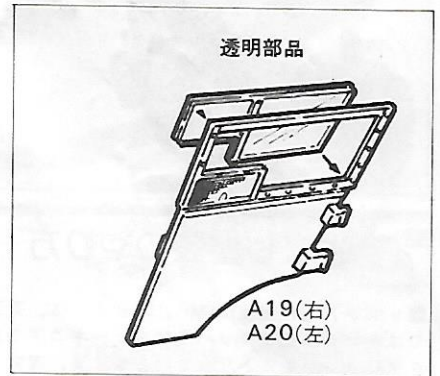


ハッチA36は開閉どちらかの状態で接着する。

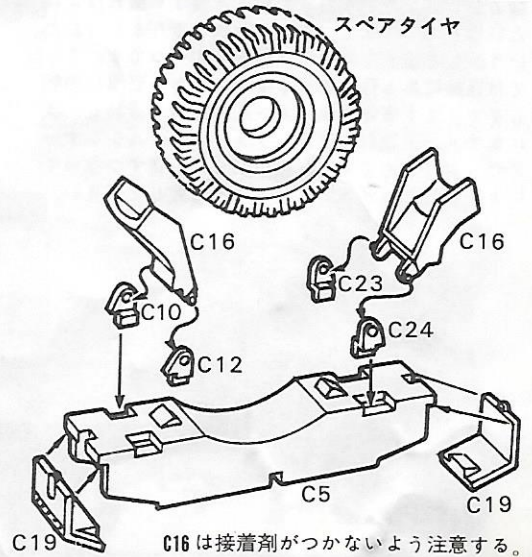
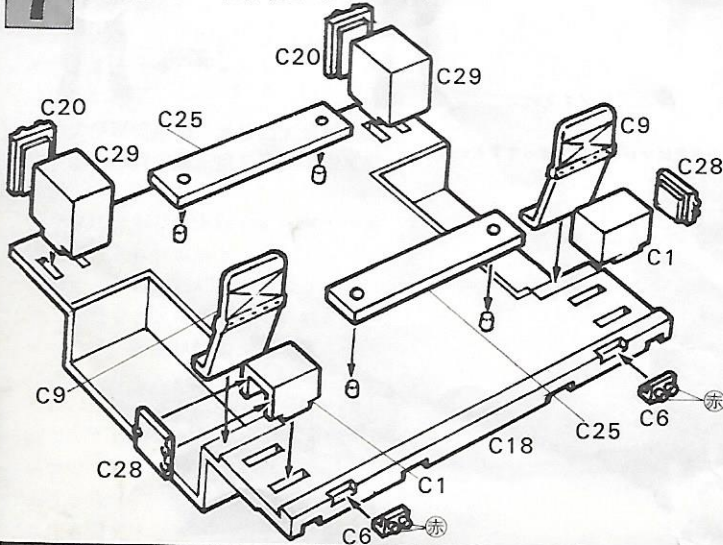


D部品プレート
(カナダ軍仕様車
のみ使用する)

ドアA19, A20は開けた状態か閉めた状態かどちらかの位置で接着して下さい。

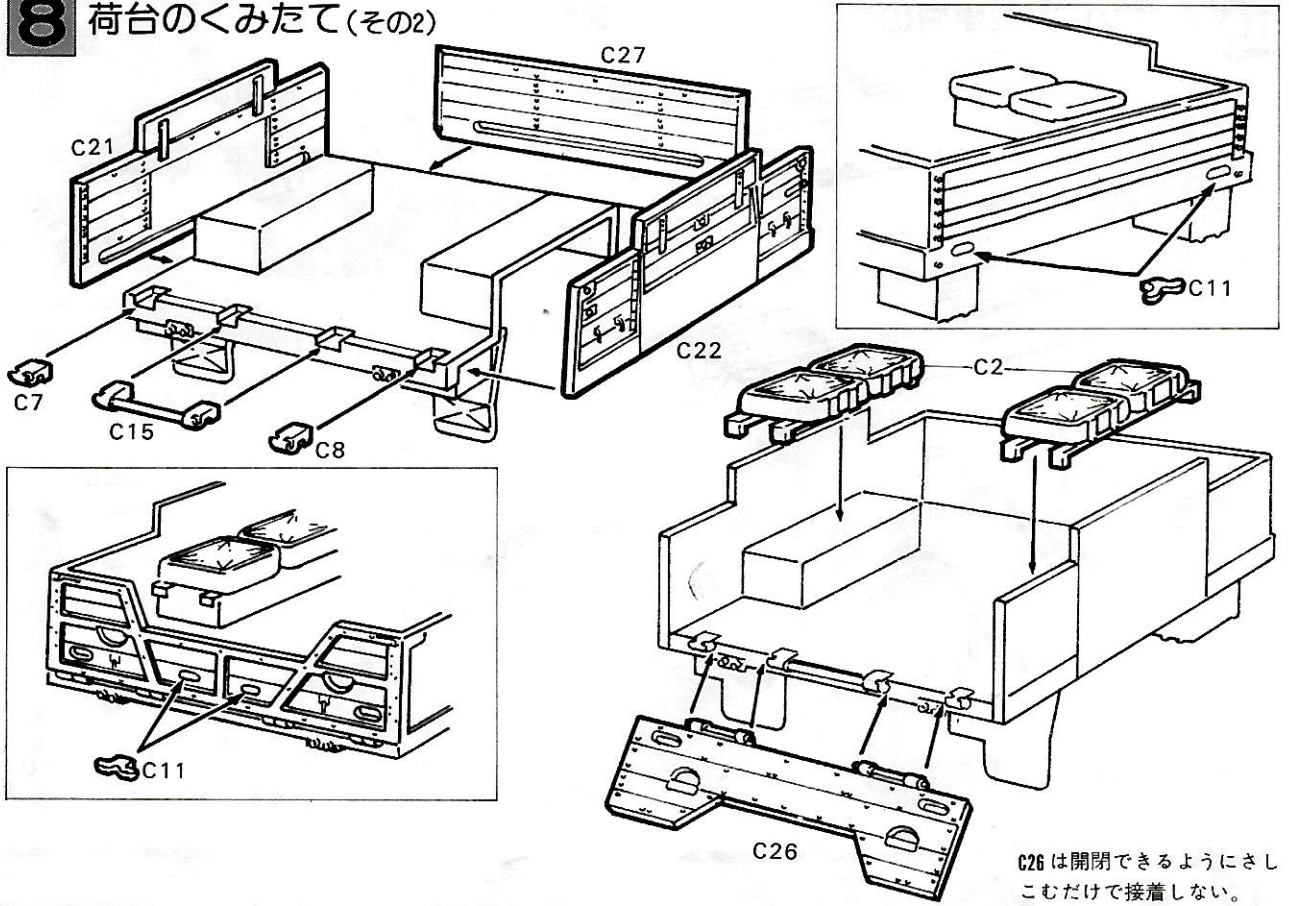


7 荷台のくみたて(その1)

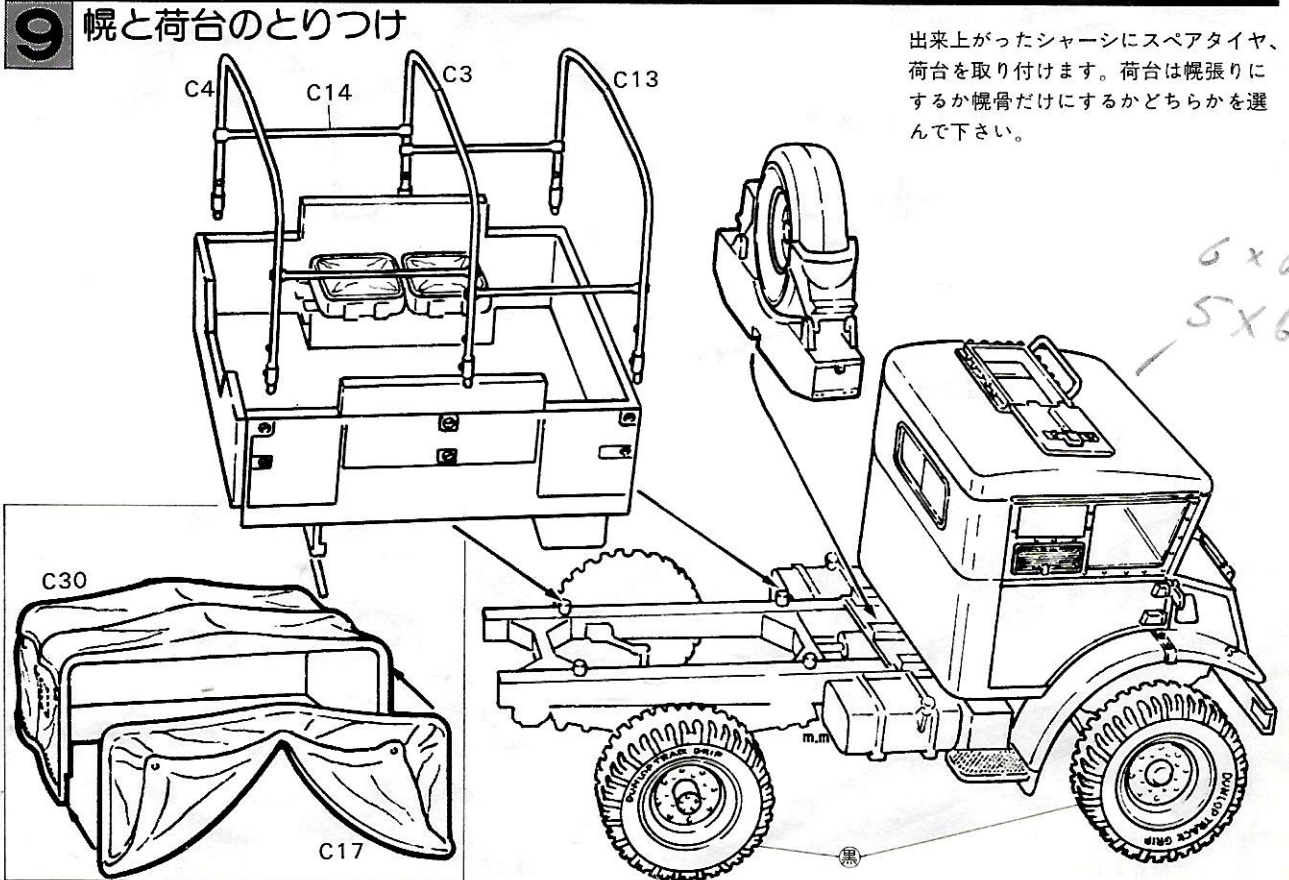


C16は接着剤がつかないように注意する。

8 荷台のくみたて(その2)

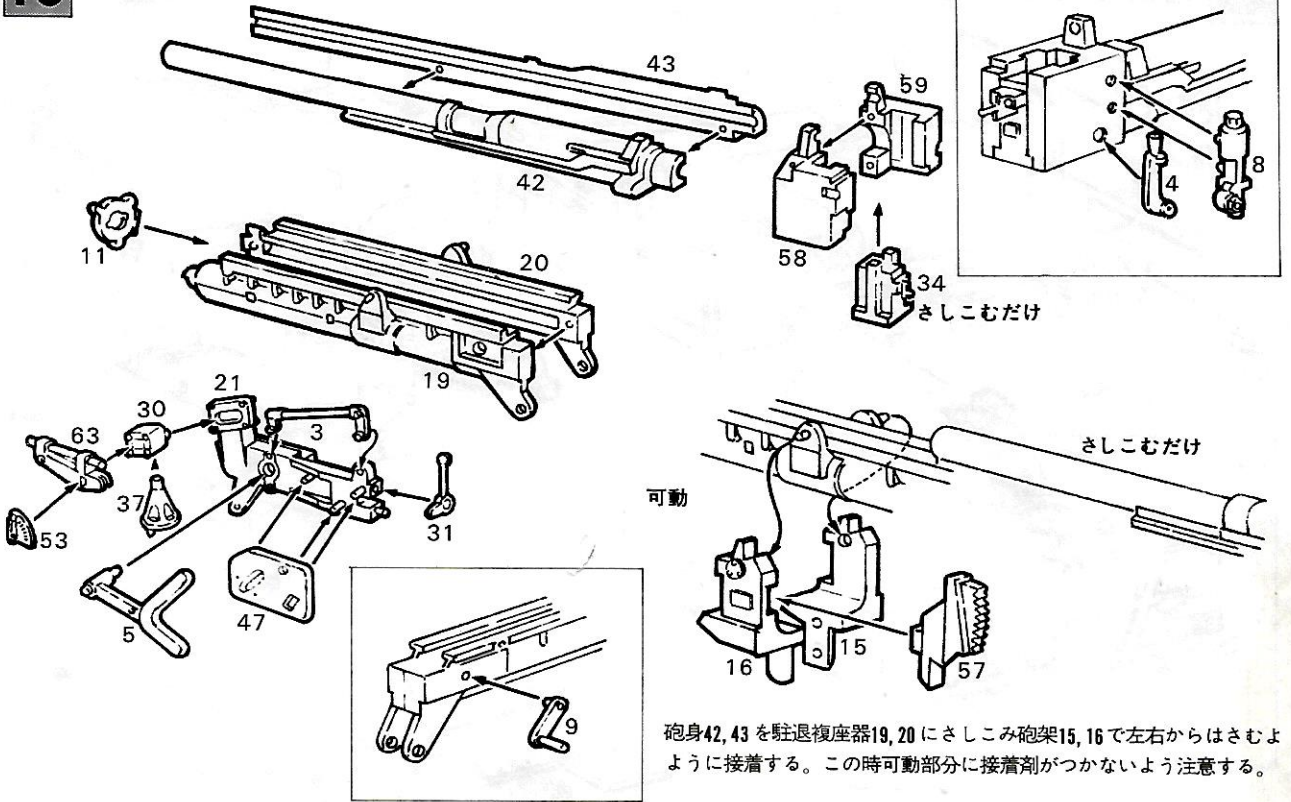


9 幌と荷台のとりつけ

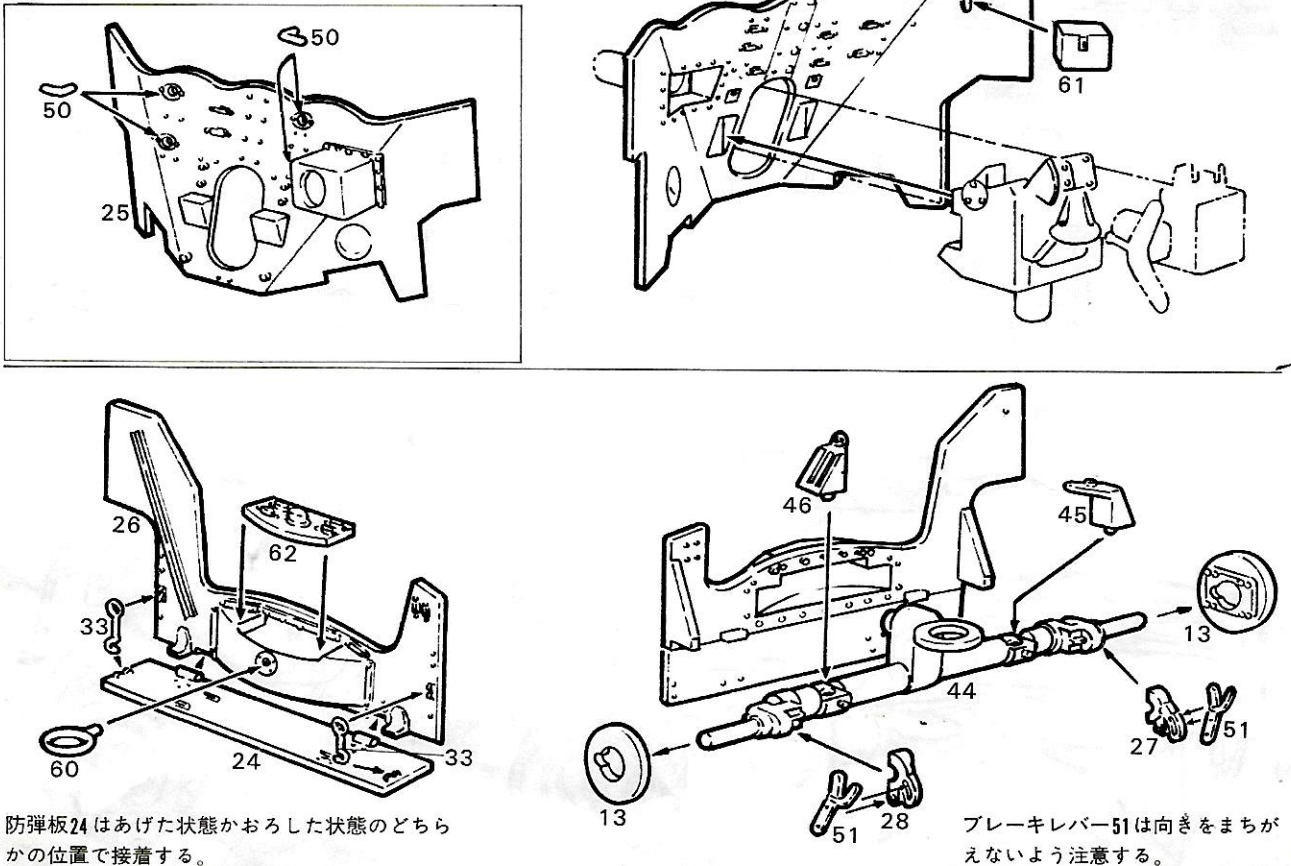


6x6
5x6

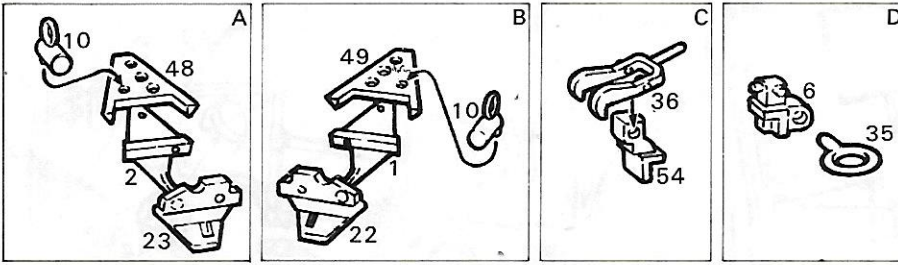
10 6ポンド対戦車砲のくみだて (6P.A.T.GUNの部品を使います)



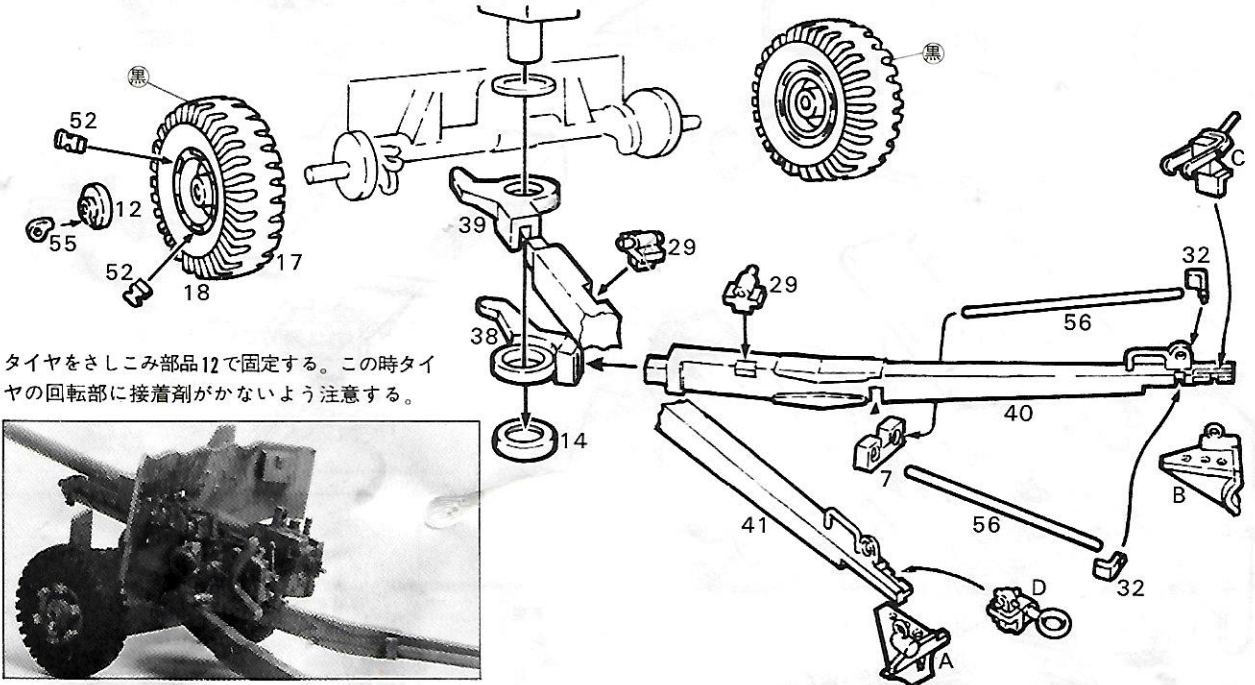
11 防盾・車軸のくみだて



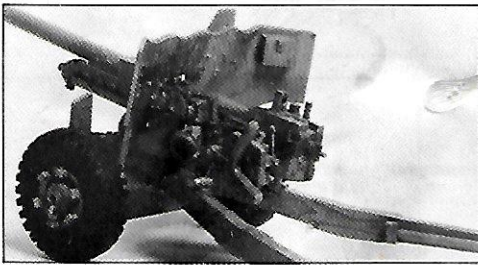
12 脚のくみだて



砲架に車軸、左右の脚をさしこみ部品14で固定する。この時脚は開閉するよう注意する。



タイヤをさしこみ部品12で固定する。この時タイヤの回転部に接着剤がかないよう注意する。



13 よごし塗装のやり方

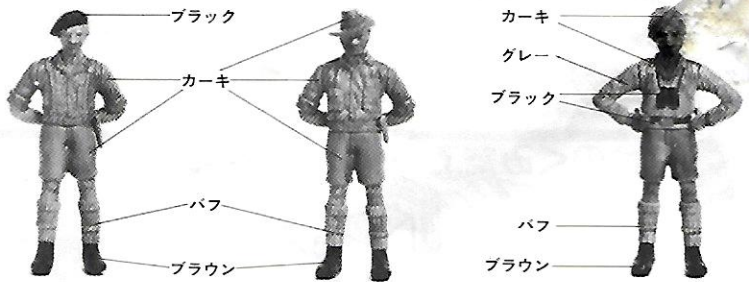
■ 6ポンド砲の塗装はCMPと同じように、アフリカではサンド、ヨーロッパ及びニューギニアではダークグリーンが基本となっています。又、迷彩を施したのもみかけられます。

■ よごし塗装といっても、単にきたなく塗ればよいというものではなく、実車が戦場を走りまわったという感じを出すためのテクニックの一つです。ここでは箱絵にある作例のようなよごし方を簡単に説明します。まず車体をラッカー系の塗料で塗装し、次にエナメル系塗料のブラックを、エナメルシンナーでたっぷり薄めてよごしたい部分に小量ずつ塗っていきます。これを基本にいろいろ研究して下さい。

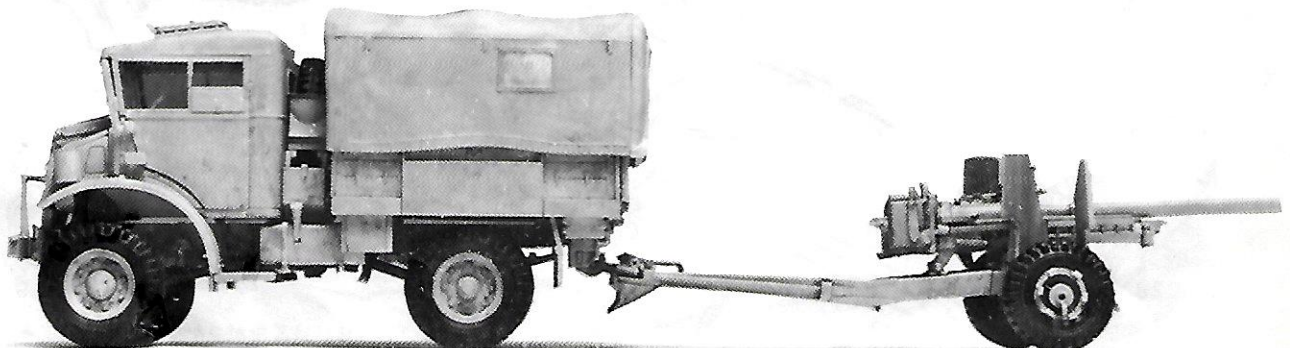
イギリス兵

オーストラリア兵

インド兵



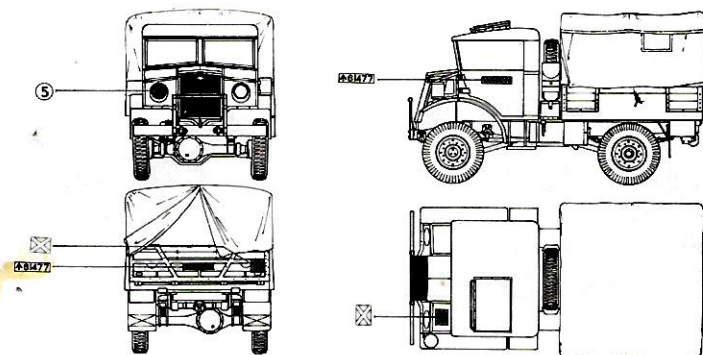
顔や手足はフレッシュで塗って下さい



14 塗装・マーキング

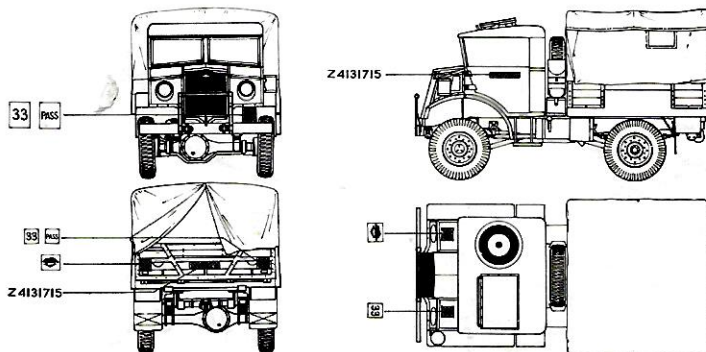
■インド陸軍使用車、第10インド師団所属。

1941年の始めにイランに派遣された部隊で、英第8軍が占領していたバグダッドに駐屯して、アフリカ戦に参加しました。アフリカ戦終了後はキプロスに転身し、さらに1944年春にはイタリアに移動しています。塗装は英軍と同様に全面サンドでしたが、英軍やカナダ軍の塗装例にあるような迷彩が施された車輛もあります。



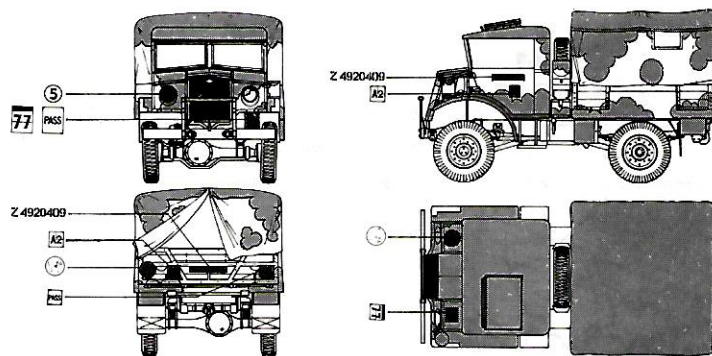
■オーストラリア軍使用車、第9オーストラリア師団、第20対戦車大隊所属。

英第8軍に編入されてアフリカ戦に参加した部隊で、特にトブルク防衛戦における活躍は有名です。1943年にはオーストラリアに帰国し、兵員及び装備等の補充が行なわれ、ニューギニアに派遣されました。塗装はアフリカ戦では全面サンドでしたが、ニューギニア方面ではダークグリーンに塗られています。又、アフリカ戦に参加した車輛では迷彩が施されたものや、塗装例のように、キャビン上面对空識別用ラウンデルを画いた車輛もあります。



■イギリス軍使用車、第21戦車旅団対戦車連隊、第1中隊所属。

1943年初頭アフリカ戦に投入され、チェニアの戦いに参加しています。以後、ドイツ・イタリア軍の降伏までアフリカで戦っていましたが、アフリカ戦終了後はイタリアに移動し、主にカナダ軍と共同して作戦を行いました。塗装は全面サンドが基本ですが、チャコールグレー（ブラック9+グレー!）やダークグリーンを用い、迷彩を施した車輛も数多くみかけられます。又、塗装例のように、フェンダーの一部をホワイトで塗装した車輛もありました。



■カナダ軍使用車、第5カナダ機甲師団、第12歩兵大隊、第2砲兵中隊本部所属。

1943年にナポリに上陸し第1カナダ軍団に編入され、ゴシックライン突破に活躍しました。1945年始めにはオランダに転戦し、ヨーロッパで終戦を迎えています。塗装は全面ダークグリーンが基本となっていますが、チャコールグレーを用いて塗装図のような迷彩を施した車輛もあります。又、ミッキーマウスパターンで迷彩されたものもありました。カナダ軍のCMPは図のように各部をホワイトで塗っています。

